

# 世田谷・九条の会

世田谷・九条の会 ニュース No.50 2018年8月28日発行 (題字 西山簡石)	●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付 Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp ●ホームページ <a href="http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou">http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou</a> ●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会
-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 「教え子を再び戦場に送るな」と憲法

大谷 尚子

「皇国民の錬成」をめざす国民学校（1941年4月～）において、教職員が子どもたちを積極的に戦場に送ったという歴史的事実があったからこそ、生まれた言葉です。

当時の国民学校では、例えば卒業式の時の校長先生の祝辞の色紙には「征け、戦え、死ね」があったとか。子どもたちに対し、自分の命を天皇のため、お国のために使えという指導をしたのが当時の教員だったのです。

そんな国民学校制度の中に、虚弱児対策などのために、学校に子どもの「養護」を担う教育職員の制度が誕生しました。それが、今日の養護教諭（当時は、養護訓導と呼称）です。それまでは、学校医の助手的存在であり「独断専行せざるよう」と言われ、教員からも指示を受ける位置づけでしたが、日中戦争・太平洋戦争を背景に、教員と対等な職種となったのです。ですから、当時の養護教諭の先達たちは、まじめに一生懸命に、お国の期待に応えようと、子どもたちを健康にし、体力を増強させるという働きをしたのです。そして、その結果として、子どもたちは、戦場に送られていったのです。



戦後、人々の平和を願う思いが第9条（戦争放棄）に結実し、平和憲法が謳う理想の実現は教育に待つとされました。そして、教育勅語に替わって教育基本法が制定され、新たな学校教育が始まりました。しかし、数年後には朝鮮戦争が始まります。そのような時代に、

養護教諭であった千葉千代世さんが提案した「教え子を再び戦場に送るな」が、教職員組合の大会で運動方針となり、教職員の共通の願いになったのでした。

養護教諭は、一人ひとりの子どものいのちと健康を守り、子どもの成長を支援する役を担っています。それは、憲法第 25 条（健康権）や第 26 条（学習権）で謳われている基本的人権を保障することでもありますが、憲法第 13 条「個人として尊重される（幸福追求権）」ことにも大いにつながるのです。なぜなら、以前は「あなたの命はお国のためにある」と言わなければならなかったのですが、今なら「あなたのいのちはあなたのものですよ」とはっきり言うことができるからです。憲法第 9 条が変わるだけでなく、第 13 条が変わってしまったら、再び「子どもたちを戦場に送る」ことになりかねません。「憲法教の人たち」と揶揄（稲田朋美議員から）されようと、憲法尊重擁護義務（第 99 条）を果たしていきたいです。  
(養護実践研究センター代表 上祖師谷在住)

## 世田谷・九条の会交流会開く



7月21日（土）、2018年第3回の交流会が開かれ、区内7つの地域九条の会：世田谷、成城・祖師谷、深沢、まつざわ、新婦人・文学、代沢、桜丘（めぐせた）から10名が参加した。

まず、事務局から前回5月より当日までの九条の会を中心とした諸行動の概要、情勢全般についての発言があった。その後各地域九条の会からの報告・行動計画等が紹介された。

○【成城・祖師谷】3000万署名 現在までで990筆、市民アクションに届けた。駅頭のほか、世話人を中心として、祖師谷二丁目団地の戸別訪問を4月から6回までやった。およそ800世帯で112筆。8月にこの団地の残りとして9月に成城八丁目の都営団地を予定している。署名の到達点をフィードバックしてほしい。どこまで進んでいるかがわかると励みになる。このほか毎月の地域デモを桜丘などからの参加を得て続けている。11/3に「コスタリカの奇跡」上映会を予定している。区内全域からの参加を呼び掛けたい。戦争法のとて（2000万署名）は、すぐに理解して賛同してくれることが多かったが、今回の署名ではすぐには訴えが伝わらない難しさがあった。

○【まつざわ】3000万署名は650筆ほど。直接集約先に送った。桜上水ガーデンの各戸に署名用紙を届けた。日常的には、学習会を中心にすえ、ニュースをカラーA4、4頁立てで随時発行している。7/14に映画「ザ・思いやり Part 1」の上映会をやり、26名が参加。

「(思いやり予算の実態を)知らなくてびっくりした」という感想が寄せられた。金子勝さんの学習会のようにも掲載したこのニュースは、地域の東京新聞にも折込みした。下高井戸で19日定例街宣をしているが、反応はあまり芳しくない。少人数で言いたいことを言い合う憲法カフェを、下村由一さんをチューターにお願いして開いた。7人だったが、終戦時の話で参加者には好評だった。次は、女性差別の問題を議論する機会を女性弁護士の方をお願いしてやりたい。



○【深沢】開店休業状態にあるが、連絡は取り合っていて、ある目途を見て署名を継続したい。地域に駅がないので、区民センターの前などでこじんまりとやるしかないという困難がある。署名用紙と返信用封筒、また署名ができるはがきを各戸に配布するなどの算段はとっている。

○【新婦人文学】新婦人の会として3000万署名には力をいれて来た。個人的に数百筆集めて頑張っている人もいる。署名を多く集めることは確かに力になるだろうが、署名に限らず、いろいろな課題で行動することが重要だろう。

○【代沢】署名は個人の努力で集めている。会として定期的に例会を開いているが、世話人6人を含め、多くて10人と広がりが少ないことが問題。「安保や戦争法反対!」という単純な話では通らなくなっている。いろいろな問題で「おかしいよね」という声が伝わるようにする努力が必要だろう。会として川崎市立平和館を見学に行った。ほかの人にも勧めたい。「安全」に関するワークショップを開くと、まず日常的な市民生活の課題が出てくる。(政府が言う)「(他国の軍事的)脅威」、「防衛」は全く出てこない。もっと切り込んで「平和でないこととは?」というように、庶民の中で平和の地盤づくりが必要だと思う。

○【桜丘、めぐせた】3000万署名は9条改憲阻止のための運動で、それ自体は大事だが、今の国会の状況を見ていると、もはや安倍政権を倒すことが重要になっていると思う。国会の立憲野党勢力の強固な統一を作り上げること、そのためにも九条の会は、広く一般の人に働きかけ、世論を起こすことが求められているのではないかと。

その後、以下の7~9月の行動予定を中心に、今後の方針が話し合われた。

- (1) 世田谷文化平和月間 2018 7/24～平和美術展 世田谷美術館；7/25 シンポジウム「核兵器のない世界」をめざして 前川史郎（日本原水協）・木村徳子（世田谷同友会）18:30～ 宮坂区民センター； 8/26 13:00～原爆写真展 世田谷公園、9/2 13:00～ 反核平和コンサート 三茶しゃれなあと；9/7 18:00～ NO NUKES GIG 2018 北沢タウンホール
- (2) 7/27 世田谷平和行進 通し行進：9:00～ 区役所前－世田谷公園；世田谷行進：18:20～ 区役所前－三軒茶屋
- (3) 世田谷・九条の会 13周年のつどい@成城ホール 11/10（土） 13:30～16:00 講演：伊藤真弁護士。文化行事：チェロとピアノのアンサンブル。
- (4) ニュース No.50 は記念号拡大版(16頁立て)として8月末日に発行する予定
- (5) 行動予定（詳細は末尾参照）  
9/6 18:30 菱山南帆子さん講演会 「今私たちができること」 東京土建世田谷支部会館  
9/7 「生かそう憲法！今こそ九条を！世田谷の会」街頭宣伝  
9/8 映画「OKINAWA1965」上映会 @成城ホール  
9/14～15 「戦争させない！・・・」ほかの統一宣伝行動（最終ページ参照）  
9/29 10:00～世田谷区民集会&パレード 世田谷区役所中庭噴水前  
11/3 成城・祖師谷九条の会 「コスタリカの奇跡」上映会
- (6) 各九条の会で予定しているオープンな行事（学習会・映画会など）は、世田谷・九条の会事務局に日時と場所を連絡願いたい。連絡網を通じて各九条の会にも参加協力を呼びかける。

## 朝鮮半島縦断の体験から得たもの

道家 暢子

私は中国(旧満州、新京)からの引揚者なので、いわゆる大空襲の戦火のなかを逃げ惑った経験もなく、防空壕に入ったことも、学童疎開の経験もないので戦争体験を、語り伝えることを、といわれると戸惑うことが多いのです。ただひとつあの日の体験だけは忘れたくないと思うことがあります。

終戦の年、1945年8月15日から数日間、朝鮮半島を徒歩で南へ南へと日本に向かって歩いた体験を強烈に思い出します。

ソ連軍(当時)との抗戦をひかえて一時疎開との指示で8月6日ごろ、新京駅を出発し、無蓋車に乗せられ朝鮮の小さな村にむかいました。そこで日本の敗戦を知り、私たちの団体は新京に戻る組と日本に行く組とに分かれました。私たち日本行きの組の中には男性は少なく、記憶では医者一人と病気の男性を数人含む30人くらいの団体であったような気がします。昼間は山の中や小さな部落を歩き、夜はお寺で休むという日が何日か続きました。ある村に入った時のこと、村の人々は私たち日本人とみるや「御真影」をもって家の中から走り出てそれを足で踏みにじり、怒りのまなざしとともに口々に憎悪のことばを投げつけてきます。子どもにとっては本当に恐ろしい光景でした。どんなに激しいことばや物をぶつけられても一緒に歩いている大人は抗議をしません。悲しい光景でした。私は訳がわからず恐ろしさにただただ身をちぢめて母にすがりついていました。



私が朝鮮の人々の怒りやその行動の訳を知ったのはそれから20年ほど後でした。これまで日本が朝鮮に対して、遡れば秀吉の時代からいかにひどいことをしてきたのか、学校では学ぶことはありませんでした。日本が植民地支配をしてきたのは朝鮮だけではなく、中国人民に対しても同じことがいえます。私個人としてはあの人々の気持ちを理解できなかったことを恥ずかしく思うと同時に謝罪の気持ちを持っています。

73年前の夏に体験した、あの村人たちの時代を重ねた悲しみや憎しみに満ちたまなざしを忘れることはありません。この体験を通じて歴史を正しく学ぶことの大切さを感じています。慰安婦問題に限らず日本人が朝鮮や中国で犯してきた罪を理解し、詫びることなしに真の友好関係は築けないのではないかと考えています。

(2018年8月 成城在住)

## 九条は人類の宝物なのだ！！

矢野 泰子

日本国憲法、そして九条、これほど格調高く凛として素晴らしい誇りに満ちた憲法が他にあるだろうか。この宝物を奪い、壊し、形を変えてしまいたい人たちがいる、なんと愚かしい!! 平和を願う世界中の人達が言う「九条は日本だけのものではない」と、今や日本全国津々浦々に「九条の会」が作られ、心ある人達がしっかり引き受け、つないで続けている。

「生かそう憲法、守ろう九条」と声を上げてきたその第一世代が高齢者になり、体調を気づかいながら背負ってきた運動から引かざるを得なくなっている。私も参加した演劇人たちで公演した、「群読 われらが日本国憲法」（この台本は吉原公一郎先生が書いて下さった。）で会のけん引車でもあった神山寛さん、いつも応援して下さいました加藤剛さんがこの半年の間に亡くなられた。大きな存在だった！その穴は埋められないままだ。でも、各劇団では若手の劇団員が、先輩達が造り上げた運動を引き継ぎ、毎月 19 日に劇団居住地の駅頭で、サイレントスタンディング行動に参加し、この二年間途切れることなく続いている。

60 年安保の時代から続いてきた戦争放棄の九条を守るこれを安倍政権に決して委ねてはいけない。この思いを若い人達にどんどん受け渡して行く事も老いを迎えた私達のしなければならない大事な課題なのではないのかと此の頃痛切に思うのだが……

居住地の集会などにも参加して思うのは出席者の殆どが高齢者ばかりで 30 代、40 代がいない、70 代の人が若く見える。街頭に立って気になるのは 30 代、40 代が無反応、無関心思考停止の状態を通り過ぎていくことだ。片手にスマホでベビーカーを押すヤングママは視野にも入れない、あのスマホに 9 条



を入れ読ませることが出来たらなどと私は思いながら見送る。この世代に届くには何がどんな事なら注目を寄せるのか今のままではダメなのだ。そんなことをあれやこれやと話し合っ、何かを生み出していかないと九条の会の動きは細ってしまう。

人が財産であり、人がエネルギーであり、運動体なのだから新たなエネルギーの注入は必要なのだが。ネット社会といわれる時代にアプローチする方法もあるのではないだろうか。おしゃべりロボットが造られる時代になって、人間社会に普通に使われるロボットに九条を守ろうと言わせたなら若者は振り向き関心を寄せるのだろうか！ 否否否。

80 歳を過ぎて毎日生きていることが奇跡みたいなもので、私は今の時代の先が見えないということに大変不安を感じている。

嬉野さんが 5 月発行のニュースに書いておられた若者たちへの声かけ、語りかけがもっとも重要だと本当にその通り共感しました。

(劇団東演俳優 喜多見在住)

# 原水爆禁止 2018 年世界大会に参加して

橋本 博

原水爆禁止 2018 年世界大会 (8/2-9) の広島大会 (4 日～6 日) に、世田谷代表団は各団体・地域の代表 22 人で参加しました (東京代表団は 650 人)。核兵器禁止条約の採択 (2017 年 7 月 7 日)、米朝首脳会談 (6 月 12 日)、憲法 9 条を守る運動を受けて、今年の世界大会は、平和の歴史的動きをヒバクシャ国際署名によっておしすすめようという内容でした。



4 日の開会総会 (5000 人参加、海外代表は 23 か国から 93 人) では、主催者報告 (富田宏治さん) で、「禁止条約を推進する勢力と、反対する勢力とのせめぎ合いは激しくなっているが、核兵器の完全廃絶を求める流れは、世界の主流であり後戻りできない。市民社会と諸国政府の共同を発展させれば前進は切り開かれる」と述べられました。

アイルランド (初)、ベネズエラ、キューバの各政府代表、被爆者の藤森俊希さんがあいさつ。総がかり実行委員会の福山真劫・共同代表 (前原水禁事務局長) は、「日本の平和運動、民主主義運動は、分裂の時代から確実に共闘の時代へと新しいステージの上に立っています。共同・共闘のなかにこそ未来があります」と連帯のあいさつ。

4 日夜、東京代表団交流集会 (参加約 100 人) では、北海道→東京 (日本海) 通し行進者・山口逸郎さんが報告。長野県で禁と協の共同の平和行進がおこなわれ、感動したと発言。

5 日は、15 のフォーラム・分科会が開催されました。私は分科会 4「被爆体験の継承・実相普及と援護・連帯活動」に参加 (約 230 人が参加)。5 人の被爆者の発言があり、米首都圏平和団体のジョン・スタインバックさんが発言、運動の交流が行われました。

5 日夜、世田谷代表団の交流会があり、昼間参加した分科会の模様が交流され、若い参加者の報告には大きな拍手でした。

6日は広島に原爆が投下されて73年目の日。閉会総会には6000人参加。禁止条約実現に尽力したオーストリア、メキシコ政府代表があいさつ。特別企画「被爆73年 被爆地ヒロシマから」では、山田玲子さん、箕牧智之さんの2人の被爆者が発言。核兵器のない世界をめざす全国各地・各分野の活動・決意が述べられました。

閉会総会で高校での「原爆の絵」制作の発言がありました。広島国際会議場で展示中とのことでしたので見てきました。インターネットで【基町高等学校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」】で検索すると、約10年の116の作品とコメントを見ることができます。被爆の実相を改めて知らされる思いでした。貴重なとりくみです。

今年の広島と長崎の平和式典のあいさつで核兵器禁止条約に触れなかった安倍首相に被爆者代表が「真意をうかがいたい」と質問したのに対して、安倍首相はここでも質問に正面から答えず、「核兵器保有国から協力を得る努力を粘り強く続けながら、橋渡し役として進めていくことが重要だ」と述べ、核廃絶に背を向けました。安倍政権を退陣に追い込み、被爆国にふさわしい政府をつくることは急務です。

世界の核被害者や平和運動をしている人々にとって、日本での世界大会がいかに大きな支えになっているかは、今年も痛感したところです。

今年の世界大会を受けて、ヒバクシャ国際署名を世田谷で大きく広げたいと思っています。署名の全国連絡会は8月6日に到達873万と発表しました。東京は到達50万、年内に100万をめざしています。

【付記】世界大会成功のための7月下旬の5回の集中駅頭署名行動（ヒバクシャ国際署名世田谷連絡会）の結果は次の通りでした。

- 第1回 7/20 成城学園前駅 参加11人、ヒバクシャ国際署名41筆、3000万署名14筆
- 第2回 7/22 尾山台駅 参加11人、ヒバクシャ国際署名47筆、3000万署名6筆
- 第3回 7/23 千歳烏山駅 参加14人、ヒバクシャ国際署名49筆、3000万人署名24筆
- 第4回 7/26 経堂駅 参加12人、ヒバクシャ国際署名56筆、3000万人署名29筆
- 第5回 7/29 三軒茶屋ホコ天 参加23人、ヒバクシャ国際署名80筆、3000万署名28筆、募金1000円

最終回は、各団体・地域から参加があり、「平和の歴史的動きを後押しする署名を！」の訴えに多くの区民が応えてくれました。 （世田谷原水協代表理事 弦巻在住）

# 用賀二丁目「東條英機自宅跡」は第一級の戦争遺跡

長谷川順一

戦争遺跡には、加害・被害・抵抗の遺跡、遺構、遺物がある。

世田谷区内の戦争遺跡を開眼させてくれたのは、転居して間もなく、世田谷区広報紙「せたがや」に「2020年東京五輪の馬術競技会場に予定されている馬事公苑は、戦前『輓馬部隊』がありました。」という保坂展人区長の一文であった。

早速、馬事公苑、日本競馬会、馬の博物館に照会をしたところ「輓馬機動隊」事務所が馬事公苑に、国士舘大学厩舎、専修大学松原厩舎も「輓馬部隊」であった。

その後、北沢川文化遺産保存の会、世田谷区教育委員会の戦争遺跡ツアーや昭和女子大学堀内正昭教授「近衛騎兵大隊射撃場の考察」の講座に参加した。更に「世田谷区近・現代史」から陸軍駒沢練兵場、駒場練兵場、衛戍第二病院、高射砲陣地、羽根木町東京防衛軍第二警備旅団第十大隊、米軍「B29」「艦載機」の墜落現場、三宿町測機舎、烏山ウテナ化粧品軍需工場等々が明らかになった。陸上自衛隊三宿基地内の「彰古館」には、戦前新宿区戸山にあった陸軍軍医学校の文献・手術器具類、広島原爆放射能調査資料、第731部隊長石井四郎が開発した濾水器が公開展示されている。同館には2015年4月に故高岡岑郷さんから代田九条の会の方々を案内している。

1945年9月11日連合軍MPがA級戦犯容疑者第一号として逮捕のためにジープで用賀二丁目東條英機の私邸に乗り付けた。東條は自らの胸を撃って拳銃自殺を図るも失敗する。極東軍事国際法廷（東京裁判）の判決が70年前の11月11日にあり、12月23日皇太子（現天皇）の誕生日に絞首台の露と消えた。世田谷区が建立した「東條英機自宅跡」の小さな石碑があるだけだが、アジア・太平洋戦争の加害の歴史を知るための第一級の戦跡だと考えている。

桜上水在住の海軍特攻兵器「回天」搭乗員だった田中直俊氏と知己になり、下馬四丁目「特攻観音堂」の存在を知った。2015年秋の彼岸の日に「特攻平和観音法要」に初めて参加した。前日本会議議長三



好達氏と「来賓席」に並んでいた保坂区長が挨拶をした。観音堂建立経緯や同奉賛会の趣旨に見られる“特攻を美化”し、大東亜戦争と書いてある碑文等には歴史認識について大きな違和感がある。トランペット吹奏、そして「空の神兵」「若鷲の歌」「海ゆかば」の全員合唱が続く情景は、靖国神社境内を彷彿させる。「世田谷区平和都市宣言」と「平和資料館建設の趣旨」から見ても相容れないと考える。よって、区長が参列することは「先例」になっているのかも知れないが、絶対に賛成することは出来ない。「区長挨拶文」の情報開示請求をしたが公文書として保存されていなかった。

世田谷区は、東京都内の自治体で初めてとなる平和専門の博物館・資料館として「平和資料館」を建設したことを評価しているが、「文化平和月間」を34年間成功させている皆様方々が、さらに展示内容を充実させるためにご尽力下さることを心から期待している。

(東京の戦争遺跡を歩く会 千歳台在住)

## 3000 万署名に警察が不当介入

板垣 武

今年3月31日に小金井市のマンションで、3000万人署名のために各戸訪問をしていた3人が小金井警察署に住居不法侵入ということで、不当に連行されるという事件が起きました。当初警察は「マンション住民から通報があったから」と説明していました。しかしそのマンションは、玄関に扉一枚なく外部から扉やドアをまったく開け閉めする必要もなく、各戸まで行ける開放的な建物です。3人は各戸のインターフォンを鳴らし、署名へのお願いをしていただけです。そんな行動に対し、警察はパトカー3台などで警察官10数名を出動させまるで凶悪犯罪者のような扱いで強制的に連行したのです。こんなことは絶対に許されるはずがありません。



9月には自民党総裁選が行われるようです。安倍首相はその総裁選の最大の争点は、「9条改憲」だと言っています。しかし、対立候補の石破元幹事長は、さらに右の「2項削除」論者ですから私たちの目から見れば、争点でもなんでもありません。どちらにしてもこれからいっそう改憲の動きが強まることは間違いありません。これらの動きをやめさせ憲

法9条を守るためにどうしても「3000万署名」を成功させなければなりません。だからこそ自民党政権にとってこうした運動は邪魔者以外のなにものでもないのです。そこに今回の警察による不当介入の最大の理由があるのです。

警察に連行された3人は、駆け付けた弁護士や国民救援会などの奮闘でその日のうちに釈放されました。その後の調査で、このマンションが「警察官専用住宅」だったことがわかりました。通報した住民とは警察官だったのです。まさに警察の自作自演で事件をつくったといわれても仕方のないものです。

5月30日小金井警察署は、弁護人に対し「これ以上の捜査は行わない」と通知してきました。これは事件発生直後から機敏に動き、救援の輪が大きく広がった運動の成果です。

これからもさまざまな不当な弾圧があるでしょうが、それらをひとつひとつはね返していくことが平和や憲法を守る運動の力になっていくのではないのでしょうか。

(国民救援会世田谷支部長 岡本在住)

## 【本棚】

### 「知ってはいけない隠された日本支配の構造」を読んで

矢部宏治著 講談社現代新書 (¥907)

赤松 熊雄

米軍による殺人事件が何回起きて、また、米軍機が事故を起こしても日本政府が安全を確認せず、米軍が安全を確認できたからと、それを許してしまう。形式上は日本が独立国であるのに、不思議でした。日本車をアメリカがたくさん購入してくれるから？とも思っていました。飛行機の制空権も米軍が握っていることも、新聞等で見えていたが、それにしても、戦後70年以上が経過しても、こんな状態が続くのか、疑問でした。しかし、この本を読んで、日本政府が許していることが解りました。外務省の高官と米軍が取り決めていることに驚きを感じました。

そういえば、退職してから家にいることが多くなって、ヘリコプターの音が気になりました。若いときは昼間はほとんど家にいることは無かったのですが、飛行機のエンジン音

が聞こえることはほとんどありませんでした。亡き母がいうには、世田谷は「おえらいさん」が住んでいるから飛行機のような騒音を出すものは通らないのだ、とっていました。

この本には日本の空は全て米軍に支配されていること、日本の国土は全て米軍の治外法権下にあること、米軍はいつでも好きな場所に基地を作ることができること、など、米軍基地を置いている他の国と比べて、ひどすぎるのが解ります。例えば、フィリピンでは、米軍基地をおけるのは指定された 23 カ所のみ、イラクでは、イラク国内の米軍は国境を越えて周辺国を攻撃してはいけない規定があること、それに比して日本は米軍の好きな場所に基地を作れ、国境を越えて軍事活動を行うことができます。だから、日本の米軍基地からイラクやベトナムに攻撃ができたわけです。このことは「日米行政協定」「日米地位協定」に基づいていることがこの本に書かれています。

今までこうした本は読みにくく、時間が掛かりましたが、この本は解り安い、平易な言葉で書かれています。高校生でも読みやすいように、章ごとに、章の最初に漫画を使用して、章全体が、文章を読まなくても 1 ページ分の漫画を見るだけで、アウトラインを理解できるようになっています。作者は政治学者ではなく、文学部出身広告会社のサラリーマンであったことが読みやすい表現になったように感じます。

内容は、1 章・日本の空はすべて米軍に支配されている（日本の飛行機が飛べる範囲は米軍が決める）第 2 章・日本の国土は、すべて米軍の治外法権下にある（米軍が日本に入国するにはパスポートも、ビザもいらない、入国チェックが無い）第 3 章・日本に国境はない（日米地位協定と日米行政協定で、日本のどこにでも基地を作ることができ、国境を越えて自由に軍事活動ができる）第 4 章・くにのトップは「米軍+官僚」である



（月 2 回の日米合同委員会に横田基地から軍用ヘリで六本木のヘリポートへ、そこから車で 5 分の「南麻布の米軍センターにて、官僚と米軍人が必要事項を協議している」第 5 章・国家は密約と裏マニュアルで運営する（新安保条約によって日米関係が対等のように表現されているが、密約で旧安保と変わりなく運用）第 6 章・政府は

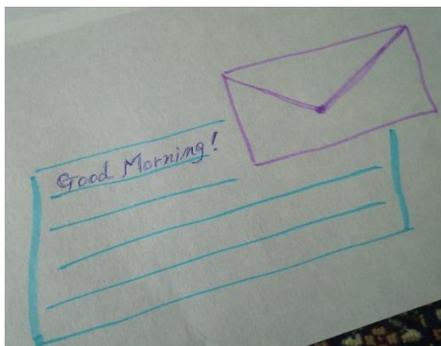
憲法にしばられない 第7章・重要な文書は、最初すべて英語で作成する 第8章・自衛隊は米軍の指揮のもとで戦う 第9章・アメリカは「国」ではなく、「国連」である。  
1から9章まで読むと日本国民に不利なことが、アメリカに有利であり、それが堂々で行われているのである。 (祖師谷在住)

## 思い出すままに (4) 朝の手紙

楠見宏義

英語教育のことについて、少し深入りしたように思います。次に学年のことについて述べてみたいと思います。

私はなぜか、世田谷の玉川地域での異動が多かったわけですが、三回目の移動があった時に少しばかり「荒れた」子どもたちを受け持つことになりました。私も年齢が40歳代になり、新しい学年を組む時にどうしても学年主任をやらなければならない立場になりました。私はそれまでは、「主任」というポストには絶対につかかなかった、いや拒否していたわけですが、「年齢順」ということで説得されて学年主任を引き受けることになったわけです。



そして新一年生を受け持つことになったのですが、かなり小学校時代から指導が難しい子どもたちだという話が耳に入ってきていたので、何か特別なことをやらなければならないのではないかと思うようになりました。私には特別な能力があるわけではないので、とにかく中学校に入学したばかりの彼らに「中学校と言う所はどういう所か」というところからはじめて、全員に手紙を出すところから始めました。

まず、入学式での入学生の態度がとても良かった、一人一人が名前を呼ばれると「はい！」と大きな声で返事ができたとか、全体的にみんなを励ますようなトーン書いたことを思い出します。春には校庭に色々な花が咲いているので、そういうことも手紙の中に折り込みました。学校で毎日暮らすということは、本当に毎日がドラマのように、次々に事柄が展開されるので、その一つ一つを取り上げて、「皆さんはどう感じていますか」とかの問いかけも随分入れました。そんなことで一学期の終わりには手紙の回数が60通を超えました。

一学期の終業式の時に、サプライズが起きました。一年生だけ残って、表彰式をやるというのです。なんと生徒代表が「長い手紙を毎朝書いてくれて、とても感謝しています。」という表彰状を手渡してくれたのです。こんなことは初めてで、とてもびっくりしました。いまでもこの表彰状は、我が家の二階の壁に貼ってあります。捨てられなくて。

一つのことで困難が突破されると、いいことが続きます。「やんちゃ盛り」だった男の子たちには、ラグビー部の顧問のA先生が「がっちり」指導してくださるようになりました。それにこの学校は、演劇がとても盛んで毎年文化祭で子どもたちが大活躍していました。先生方も、それぞれの個性を生かして活躍され、学校生活を満喫されていたのではないかと思います。この「朝の手紙」運動は、各地で引き継がれています。

(世田谷区労連顧問 川崎市在住)

## 【おたより】

- 現在は定年退職し、川崎市で生産農家をささやかながら営んでいます。現政権の憲法改正といっても、安倍総理が行いたいのは、9条の改正のみだと言うことは明白です。8月は、広島長崎の原爆投下を思い起こす月です。

原爆被爆者や戦争体験者の方々は、「戦争は勝っても負けても悲惨である」と発言しています。九条の会の役割はとても重要です。訴え続けましょう。

特に若い世代には、個別的自衛権と集団的自衛権の違いを説明し、9条の改正は、集団的自衛権の発動に繋がるということをアピールすべきと考えます。(梶)

- 88歳になります。敗戦時は、勤労働員で、軍需工場のセンバン工でした(中学3年生でした!)。その頃の思い出を書いておこうと思っています。(吉澤)
- いつもニュースを送ってくださり、ありがとうございます。集会やパレードに参加したいのですが、病気で居宅介護サービスを受けている生活のため、行くことができません。(鈴木)



## 【当面の行動予定】

9月6日 戦争をさせない!九条こわすな!世田谷連絡会学習会 東京土建世田谷支部  
18:00~ 講演 菱山南帆子さん

- 9月7日 「生かそう憲法」統一街頭宣伝行動 三軒茶屋駅 18時～19時
- 9月8日 映画「OKINAWA 1965」上映会 成城ホール 13時～
- 9月11日 世田谷1000人委員会街頭宣伝 下高井戸駅 18時～19時
- 9月14, 15日 18時～19時 区内統一宣伝行動 下北沢駅（責任団体区労連）、成城学園前駅（責任団体：地区労）、豪徳寺駅（責任団体：区職労）、千歳烏山駅（責任団体：土建・年金者組合）。このほか、区内各駅頭での宣伝も呼びかけられています。世田谷・九条の会事務局は、9月15日の16時～17時、桜新町駅前を予定。
- 9月19日 安倍9条改憲NO！沖縄・辺野古新基地建設阻止！総がかり行動 日比谷野音18時～
- 9月29日 世田谷区民集会&パレード世田谷区役所中庭噴水前 10時～

## ♪ 世田谷九条の会 13周年記念音楽と講演のつどい ♪

11月10日(土) 成城ホール 13時半～

### 音楽

チェロとピアノのアンサンブル

チェロ演奏：竹花加奈子さん、ピアノ演奏：笈沼甲子さん

### 講演

伊藤真氏（弁護士・九条の会世話人） 演題未定

## 【編集後記】

☆ 戦後73年を迎えたこの8月、劇団東演（世田谷区代田）が公演した朗読劇「月光の夏」を観た。原作の毛利恒之氏の同名のドキュメンタリ小説は映画化もされ、多くの人が鑑賞されたと聞いている。私は映画をみてはいないが、この劇で久しぶりに本格的な生のピアノ演奏を聴かせていただき、あわせて考えさせられることがあった。特攻隊員として戦死した学徒兵と、機の故障で引き返し、一命を取り留めることになったその友人の苦悩と心の葛藤は、どのようなものであったか。戦後生まれの私たちの世代との心理的ギャップは小さくない。

昔、親類が集まった時、父の一世代上の男性が、「無意味な戦争で、負けるのは分かっていた。犬死にだった。」と話した時に、普段はもの静かで優しくかった叔父が、「俺たちは死ぬ気で戦ったんだ」と猛烈に反発したことを覚えている。叔父は学徒兵として

大陸に派兵され、負傷もしていた。私が戦前にタイムスリップした青年だったら、どう振る舞っていたらだろうか？

実はこの観劇の前に、本屋でふと手に取った久野潤編「学徒出陣とその戦後史」(2017、啓文社)を一読していた。元学徒兵のインタビューをまとめた本である。学徒兵は、悲愴感だけではなかったと綴る。「祖国をまもるために犠牲になる」、「命をかけて国難に立ち向かう」、「友の後を追う」とも。この本の編者は、先の戦争はやむを得なかった「宿命」と捉え、戦争犠牲者を、「純粋に」慰霊し、顕彰すべきと、ことさらに強調する。本の冒頭で、編者は、「考えてみれば、大学から大学院へと進学する中での研究もそうですが、そうした活動を毎日命の心配もなくてできるのは、命をかけて戦ってくだ

さった先人たちのおかげです。」と記している。

この「おかげ」には違和感がある。「戦争を経て、戦争放棄を憲法に記すまでに大きく日本の社会を変える契機を担った」、あるいは「敗戦で自由と民主主義の歴史が一步も二歩も先に進められた」という意味であるなら合点がいく。慰霊は、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」(広島原爆死没者慰霊碑)という誓いと表裏一体であるべきと思うからだが、皆さんはどう

(K 生)



お考えだろうか。

- ☆ 世田谷・九条の会「13周年のつどい」の会を上記枠内のおり開催します。多数のご参加をお待ちしています。
- ☆ 世田谷・九条の会のホームページには、ブログ欄に諸行動の予定が、また掲示板欄には、新聞等の報道、行動の成果のほか、有識者の SNS 発信が掲載されています。参考にしてください。
- ☆ 世田谷・九条の会は、皆さまからの寄金で事務所維持、ニュースの発行、ホームページの運営をしています。印刷と郵送費相当(年1口1000円)でも結構ですので、皆さまのカンパをお願いします。
- ☆ ニュース原稿は、いつでも募集しています。個人的な体験や行動、政治・社会の出来事でも思ったこと、感じられたことをお書きください。次号は2018年11月に発行予定です。800~1000字程度で、メールまたは FAX でお寄せください。最近読んだ本、観た映画、舞台など、皆さんに紹介したいことがありましたら、大歓迎です。